

太宰府の文化財

432

コロナ禍での伝統的な年間行事や祭り

いまだ猛威を振るう新型コロナウイルス

ウィルス感染症の影響により、これまで全国で行われてきた伝統的な行事や祭りが中止されたり、形を変えて行われたりしています。太宰府市でも、行事や祭りを担う人々の間で多くの論議が交わされ、例年とは違

う形で行事が実施されました。県指定無形民俗文化財の「太宰府天満宮神幸行事」は、太宰府天満宮が祀る菅原道真の神霊を載せた神輿を氏子が担ぎ、秋分の日の前日夜半に本殿から道真の配所であった榎社に下り、一晩過ごして、秋分の日

の午後に再び太宰府天満宮へ上る御神幸です。昨年は行事の形式は崩さず、参加人数を大幅に減らしたうえで時間を短縮し、神輿を担ぐ與丁や隊列に参加する人の配置を替え、馬の頭数を減らすなど、感染症に配慮した対応がとられました。この行事で奉納される、県の無形民俗文化財指定の「竹の曲」（行事の保護団体は竹の曲保存会）の参加は奉納のみで、神輿への供奉は見合わされまし

た。1月7日に太宰府天満宮で実施された県の無形民俗文化財指定「鬼すべ」（行事の保護団体は太宰府天満宮氏子会）は、神社本殿内に限られた人数で日中のみ祭事が行われました。鬼面を持った鬼役を卵杖で叩き、豆をまく所作を取り入れられ、疫病を払うことを込めた行事となりました。

せずに漆黒の闇の中で木うそを交換し合う行事ですが、今年は参加者を抽選とし、感染防止のための手袋が配布され、少人数で3回、絵馬堂内の薄明りの中で実施されました。40歳の初老を祝う「梅上げ」行事は、毎年3月の週末に、その年齢に該当する有志が会を作り、隊列を組んで紅白の餅を配りながら天満宮の参道を通り、神社の苑内に梅を献梅する（植える）行事です。しかし、令和2年は見送られ、令和3年に2つの団体が異なる日に実施しました。また、12月3日前後に天満宮門前町を中心に行われる恵比寿の祭事は、接待を自粛したそうです。地域では、小規模な神社の秋の大祭や年の暮れに行われる宮座を見送ったところもあるようですが、神様の前で会食する直会を省略したり、参加者を絞ったりする工夫をしながら、地域の顔であり、よりどころである伝統的な行事や祭事を、次につながる努力が続いています。



初老梅上げ



うそ替え

市の無形民俗文化財であれば、1月7日の夜に太宰府天満宮で行われた「鷺替」は、例年は人数を制限

文化財課 山村 信榮